

Hamamas



Oct/ 2010

Now ni stap long Kokopo. Long Kokopo,
I gat planti nature na gutpel a si na
nai spel a kal sa. O semna ni lai ki mtoki m
yupel a long Papua New Gui nea. O sem na
ni meki msampel a toksave long Hamamas.
Sapos yupel a i gat lai k long Papua New
Gui nea, bai ni Hamamas. Tenkyu tru.

こんにちは。10月に入り、私の活動も3カ月をきりました。今回は私が経験したトーライ族の葬式について話したいと思います。

<トーライ族の葬式について>

葬式の儀式はミナマイと呼ばれています。この儀式は親族また亡くなった方の地域のコミュニティーの人達（ワントク）が参加します。地域のコミュニティーの人達も参加するため、参加者はとても多く、200~300人程いました。また参加者は男女分かれて座ることが決まりらしいです。基本的に親族の服装は黒い服を着ています。



男性の参加者達



女性の参加者達

① 親族からブアイをもらう

「葬式に来てくれてありがとう」というWelcomeな意味があるらしいです。葉っぱに包まれたものの中にブアイが入っています。このブアイは大人の参加者に配っていました。私もブアイをもらいました。ブアイは苦くおいしくないため、噛みたくなかったが、葬式の流れに逆らいたくなかったので友人と一緒にブアイを噛みました。ブアイを噛んで舌が真っ赤になり、軽いめまいがしました、、、



葉っぱに包まれたブアイ



ブアイを大人の参加者に配る親族



友人とブアイを噛む私

② 親族がシェルマニーを参加者に配る

葬式のメインの儀式で、Brukim Tabuと呼ばれています。この儀式は親族のロロイ（大量のシェルマニーを車輪状に束ねて作ったもの）を司会者が参加者に対して紹介し、親族がロロイを崩して儀礼として参加者に配ります。その際、男性の親族は男の参加者に、女性の親族は女の参加者にシェルマニーを配っていきます。

またロロイの大きさはその亡くなった方の社会的地位を表しているそうです。大きなロロイであれば、その方はビックマン（社会的地位が高い）となります。またビックマンの葬式では、Tubuan（トーライ族の精霊）が儀式に参加し、Tubuan にシェルマニーを投げてぶつける儀式もあるそうです。

これらの儀式は死者が精霊の宿る所に行けるようにするための儀式であり、この儀式を行わないと死者は精霊の宿る所に辿り着くことができないそうです。

一部の参加者はもらったシェルマニーで会場にあるマーケットで食べ物やスナック菓子などを買ったりしていました。私ももらったシェルマニーでアイスクリームを買いました。



参加者にシェルマニーの紹介している所



親族によってロロイを崩している所



親族が参加者にシェルマニーを配っている所



葬式会場にあるマーケット



シェルマニーをもらった子供

③ みんなでご飯を食べる

最後は親族が参加者に食事を用意し、ご飯を食べて儀式は終わります。

(おわりに)

今回はトーライ族の葬式の儀式について書かせてもらいました。儀式には地域のコミュニティーの人達が多く集まり、また親族は参加者に儀礼としてシェルマニーを配るなど、トーライ族特有の方法で行われている事を学びました。

(19/Oct/2010)

St.Mary's Hospital Vunapope Physiotherapist HIROTAKA YAMAMOTO JICA VOLUNTEER